

公共事業事後評価調書

所管課： 道路街路課

1 事業概要	事業名：一般県道 平良下地島空港線道路改築事業		再評価年度：－	
	事業種別：一般県道改築事業	事業主体：沖縄県		(H13～H24)
	事業箇所：宮古島市	根拠法令：道路法		事業期間：H13～H26
	(32,000)	費用内訳：補助 9/10		事業量：L=6.5km・W=8.5m
(整備目的)	<p>一般県道平良下地島空港線は、国道390号の久貝北交差点を起点とし、下地島空港を結ぶ延長14.9kmの道路であり、伊良部島及び下地島の離島苦の解消、生活基盤の確保及び地域間の交流を支援・強化する重要な路線である。伊良部島と宮古島間は、定期船により結ばれていたが台風や冬季波浪等の荒天時には欠航を余儀なくされ、通勤・通学及び生活物資の輸送や農産物の出荷等に大きな影響を及ぼすとともに、緊急患者の搬送においては人命に関わる深刻な問題を引き起こしていた。</p> <p>本事業の整備により、伊良部島の生活環境や医療・教育環境の改善など、宮古圏域の地域振興を図るものである。</p>			
2 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>①事業費：&lt;当初&gt;320億円 → &lt;事後評価時&gt;400億円</p> <p>②事業期間：&lt;当初&gt;H13年度～H24年度 → &lt;事後評価時&gt;H13年度～平成26年度</p> <p>③交通量推計(H42)：&lt;当初&gt;10,500台/日 → &lt;事後評価時&gt;12,400台/日</p>			
費用対効果分析結果(事後)	<p>① 走行時間短縮 201,693</p> <p>② 走行経費低減 10,775</p> <p>③ 交通事故減少 150</p> <p>総便益 212,618</p> <p>基準年換算(B) 108,889</p>		<p>① 事業費 37,116</p> <p>② 維持管理費 900</p> <p>総費用 38,016</p> <p>基準年換算(C) 52,472</p>	
(検討年50年) (基準年H30) (単位:百万円)	費用便益比 (B/C) = 108,889 / 52,472 = 2.08			
3 事業効果の発現状況	<p>①モビリティ(移動のしやすさ)の向上</p> <p>・伊良部大橋開通前は定期船欠航回数が年に200～500回程度であったが、伊良部大橋開通後は台風時等における交通止めが年数回程度となっており、天候に左右されず容易に移動が可能になり、地域の活性化につながっている。</p> <p>・年間旅客数も開通前後を比較すると、約7倍に増加している。</p> <p>②観光客の増加および観光収入の増加</p> <p>・伊良部大橋開通後の、宮古島市の入域観光客数、観光関連消費額が開通前と比較し、大幅に増加している。クルーズ船の寄港回数についても大幅な増加している。</p> <p>・伊良部大橋が、マラソンや自転車等によるイベントのコースになっており、宮古島市で年間通して行われている多くのイベントを盛り上げる一因となっている。</p> <p>・伊良部大橋が「無料で通行できる日本一長い橋」であることや、景観が美しい等、各種メディアで取り上げられたことにより、宮古島市の知名度が向上し、観光客数の大幅な増加に寄与している。</p> <p>③生活環境・文化水準の向上</p> <p>・伊良部出張所から県立宮古病院への緊急輸送件数は年200～400件程度であり、伊良部大橋の開通により、通院・急患搬送が天候に左右されず安全に可能になり、県立宮古病院への移動時間も短縮している。</p> <p>・伊良部大橋には、上水管、農水管、電力・電話ケーブル等が添加されており、その結果、伊良部島のライフラインが安定し、生活環境の向上に寄与している。</p> <p>④定住・地域の活性化</p> <p>・伊良部島の人口は年々減少しているが、伊良部大橋開通後、減少数が少なくなっている。</p>			
4 事業実施による環境の変化	<p>①生活環境：</p> <p>・伊良部大橋開通後は、天候に左右されない交通手段が確立されることにより、住民生活の不便が改善され、観光産業をはじめとする宮古圏域の振興発展に寄与している。</p> <p>②自然環境：</p> <p>・事業完了後も環境影響評価を実施しており、騒音、振動等については環境監視基準を満足していることを確認し、調査を終了している。海域地形や陸域・海域生物については対策・調査を継続しており、調査の結果、本事業の実施による著しい環境影響は見られていない。</p>			
5 社会経済情勢等の変化	<p>①社会・経済：</p> <p>下地島空港において、2017年3月に沖縄県と三菱地所が基本合意書を締結し、2017年10月に旅客ターミナルビル建設に着工しており、2019年3月の開業を予定している。</p> <p>②地元・自治体：</p> <p>・伊良部島の玄関口にあたる位置(伊良部大橋の側)に、島民と来訪者が交流できる拠点として橋詰め広場を県にて現在整備中であり、当橋詰め広場内に宮古島市が「地域振興施設」を整備する計画である。</p>			
6 対応方針	<p>①今後の事後評価の必要性：</p> <p>一般県道平良下地島空港線の整備に伴い伊良部大橋が開通し、天候に左右されない交通手段が確立されたことにより住民生活の不便が改善され、観光産業をはじめとする宮古圏域の振興発展に寄与していることから、整備に伴う事業効果が発現している。このことから、今後の事後評価の必要性は低いと考える。</p> <p>②改善措置の必要性：</p> <p>整備に伴う事業効果が発現しており、環境等への大きな影響がみられないことから、改善措置の必要性は低いと考える。</p> <p>③同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性：</p> <p>当該事業の計画・調査は適正に行われているとともに、評価手法については定量的、定性的に評価しており、見直しの必要性は低いと考える。</p>			